

日蓮宗 常栄山 本照寺だより

身延山 団参

■去る4月24日〜25日の土日にかけて、日蓮宗総本山・山梨県・身延山久遠寺へ大型観光バスにて、45年連続となる参拝旅行に行ってきました。(午前8時・白山集会所出発)。本照寺からは19名、そして全国から1500余名が参集のもと、「身延大会」へ参加、夜の花火、200発も堪能できました。朝夕は「寒い」と



宿坊での夕食…いただきます

いった状況でしたが、好天の中を参拝、帰路には「富士川サーブエリア」「沼津港」へ立ち寄ってのお土産等々、車中や宿でも和気あいあいの2日間に：

次に参加者をご紹介します。参加、お疲れさまでした。◆本杉幸子・難波雪江・太田はな子・太田美智恵・長澤和子・長澤保彦・長澤政也・斎藤由枝・福岡すみ子・小島祝

第36号
厚木市下古沢133
TEL・046-247-1156
FAX・046-247-1156
振替・0230-7-35749
(加入者名・本照寺)
発行者 須藤教裕
本照寺・須藤教裕

死を迎える空間 ベッド

■私たちが死を迎える時は、きつと病院のベッド、或いは老人ホームのベッドに横たわっていることでしょうか。しかし、はたしてそこは「悔いを残す空間」となるのでしょうか？ はたまた「心を満たす空間」となるのでしょうか？ どうぞ、他人事としてでなく、死を迎えようとしている自分が、ベッドで横になっている姿を想像してみてください、とても大事なことです。

■日蓮聖人は鎌倉時代に、「老いたる者も若き者も、死はまぬがれざる理である。されば先ず臨終のことを習いなさい。他のことを習うのは後でいいのですよ」と言われましたが、私はこれを「誰にも死は来ます。ですから先ず死を習いなさい。死を知らなければ生の重み、尊さも実感で

きません。故に死というものが判れば自ずと生き方が判ります」と、理解しています。■冒頭に書きましたように、2つの選択肢があります。「悔いを残す空間」、或いは「心を満たす空間」か。そしてこの2つの選択肢の何れかを決めるのは、他ならぬ自分自身のはずです。相田みつお(元僧侶で詩人)は「幸せはいつ

も自分の心がきめる」と言いましたが、その心を作り、その心を決めるのはこれからの生き方にあるはず。そう、「悔い」と「満たす」という2つの選択肢は私たちの手の内にある、ということなのです。■満足の内には死を迎える人があることでしょうか。片や悔いの内に死を迎える人もいます。日蓮聖人は仰せです、「恩を知らざるもの、これを畜生と名づく」と。

子どもの教育

「テレビは見てはいけない」苦米地英人(とまべちのじ) PHP新書から
■犯罪者の多くに共通するのが「自己評価の低さ」です。そして多くの場合、その自己評価の低さは子どものときに、親や周りの大人に植え付けられたまま歳を重ねてきたものなのです。
「自分なんてこの世にいらなくてもいい」「自分が何をしても状況は変えられない」といった低い自己評価が、やがて「自分をこんな目にあわせた社会に復讐してやりたい」という自暴自棄な犯罪へとつながっていくので

す。まさに「負の洗脳」といえるでしょう。■昨今のニュースを騒がせている無差別通り魔殺人の犯人も、ほとんど全員、子どものころから自己評価が低い環境に置かれつづけていました。その結果が「他人を巻き込んだ自殺」であり、「だれでもよかった」という無差別殺人となったのです。そうした事件を減らすためにも、子どもの教育は非常に大切だとルー・タイスと私は考えています。だからこそ、子どものときから自己イメージを高くする訓練が必要なのです。
(：親としてのしつかりとした愛情があれば申し分ないですが、せめて優しくと厳しさを共に持ち合わせることを心がけましょう)

犯罪者は子どものころから自己評価が低い

お気軽？ 勉強会

■7月24日(土)、10時から2時間限定？にて「勉強会」を開催。参加費千円(弁当代)ですので、この機会に是非ご参加を。当日直接どうぞ。講師は院首上人です。

感謝祭

■4月1日、午前9時から盛運祈願祭・感謝祭が開催されました。お金は元の所へ届いていました。驚いた。外国だったら有り得ない。最近の日本のニュー有りは悪い事件が多いが、それは本場の日本ではない。誠実とは目立たないことだが、誠実とはすばらしい宝物だ。
カルロス・イシカワ37



お釈迦様の誕生日

■4月8日午後2時から「釈尊降誕会・花祭り」が開催されました。白山子供会から40人の子供たちが参列のもと、お経、甘茶かけ、ビデオ鑑賞、お話があり、子供たちによる合唱が披露。最後に「お菓子セット・写真」を手に手に、参加者



編集後記

「戒名は自分で決める・戒名料の相場は40万円」を出版した島田裕巳、また「檀家さんの我慢はもはや限界前・マンネリ葬儀に法外な戒名料」村井幸三など、近頃お寺も風当たりが強くなりました。しかし仏教の教えは因縁と認識すべき。▼前号で「縁」として一女性を紹介しましたが、3件の問い合わせがありました。しかし残念ながら、引き続きのご紹介、というところで、今後も紹介者募集！▼ベッドの火葬は愛川聖苑(046・285・9411)がお勧め、ベッドの大小を問わず1万円です(愛川町民は5千円)。また従来通り、本照寺お檀家の方は、無料にて本照寺・ベッド墓地に埋葬できます

私たちのお寺は

宗派・日蓮宗
ご本尊・大曼陀羅
【だいまんだら】
ご本仏・久遠実成
本師釈迦牟尼仏
【くおんじつじょうほんししやくかにぶつ】
総本山・身延山
久遠寺
【みのぶさんくおんじ】
宗祖・日蓮大聖人
経典・法華経
主に唱えるもの・開経偈～方便品～自我偈～お題目～宝塔偈

自分でつくるお弁当から見えてくるもの

いのちをいただく、とく(てん)ぐさ

弁当の日の奇跡

「子供がつくる『弁当の日』を実施します」
すべてはその言葉からはじまった。四国の小さな町の小学校で校長をしていた竹下和男は、PTA総会で、そう宣言した。
2001年のことである。
総会に出席していた母親たちからブーイングが起こった。
「子供が包丁や火を使って、事故でも起きたら一大事だ」
「共働きの母親の負担が増える」「弁当づくりのために早起きするなんて無理。勉強にも差し障る」
親も教師も、校長が面倒なことを言いだしたぞ、という顔だ。

「本照寺」のホームページは「厚木本照寺」で検索してください。
この「本照寺だより」が届かない家はお檀家登録がされていません。墓地があっても「本照寺だより」が届かない方はお知らせください。

今どんな野菜が旬なのか、興味をもつ子も増えた。

お父さんにつくったお弁当

おばあちゃんにつくったお弁当

5年生の女の子は、自分の分だけでなく、お父さんとおばあちゃんに感謝弁当をつくった。

お父さんへのお弁当

（中略）お父さんは大阪に単身赴任中で、週末だけ家に帰ってくる。月曜の朝、大阪に戻る新幹線のなかで食べてほしくて、朝5時に起きた。

おばあちゃんへのお弁当

おばあちゃん入院中だった。お母さんが病院へ届けた。おばあちゃんベッドの上で正座をして、孫の手づくり弁当を受け取った。

（中略）お父さんは、うれしかった。娘が早朝から一人で弁当をつくっている姿を見て泣き、その弁当を受け取って泣き、食べて泣いた。会社に着くと同僚たちに自

お米やニンジンや鶏肉が調理されて口に入るまでに、育てた人をはじめ、たくさん働いた人が存在していることに気づいた。スーパーに並んだ魚が生きて泳いでいたときの姿を想像し、命を食べているのだということ。
そうして、食べることの楽しさ、うれしさ、ありがたさを知るにつれ、毎日の給食の残り物も少なくなっていた。

第12回 泊おししゅぎょう

空かされてるお陰さまを伝えたい

- ★期日・7月26日(月) 午前9時〜27日(火) 午後3時までの一泊二日
★場所・本照寺境内・就寝は境内にてテント
★対象・小中学生(小学1年生は兄弟の参加なしでは参加できません) 45名程度
★参加費・3千円
★主な行事・お経練習・座禅・お話し・紙芝居・ウォークラリーまたは高松山登り・カレー作り・食法・温泉で入浴・花火・肝試し・プール・流しそめん・親への手紙など。
★毎年「日蓮宗特製Tシャツ」や集合写真をプレゼント。おさいふ不要です。

★参加ご希望の方は本堂にある「参加要項」にて直接申し込みください。また遠方の方は本照寺へご連絡ください。「参加要項」を送ります。

★「食法・じきほう」

「食法・じきほう」
「食べる前に唱えます」
「久遠の仏さま、ありがとうございます。私たちの命を支えてくださる皆さん、ありがとうございます。お父さん、お母さん、ありがとうございます。すべてに感謝し、ありがたうございませう。南無妙法蓮華経、いただきます！」

★「食法・じきほう」

「食法・じきほう」
「食べ終わったら唱えます」
「(いたただいた)この命と力を無駄にすることなく、毎日のつとめに励みます。南無妙法蓮華経、ごちそうさまでした！」

その先に見えてくるもの

■経験を通さないと気づくことができないこと、見えてこないもの、私たちが、いつばいありますね。
：悲しみを通さないと気づくことができないこと、苦しみを通さないと見えてこないもの、また、病を通さないと気づけないこと、
「先ず臨終のことを習いなさ

「空気が読まない」鎌田貫・集英社

いただきます!

「私は結婚以来、たくさんのお弁当をつくってきた。だけど、つくってもらったのはこれが初めて」
「ありがとうございます。おばあちゃんも泣きながら食べた。いただきます。」



樹齢780年の檜

♪気になる木

2



その樹齢は?

の全部を一旦解体した後、再度元の形に組み直すという大工事で、「姫路城昭和の大修理」と呼んでいますが、傷みの激しかった西大柱は新しいものに取り替えられました。この西大柱に使用された材は、関係者が日本中の山林を1年間探しまわってようやく見つけた檜の巨木で、木曾の国有林から伐り出した根元直径95センチ、樹齢約780年のもの」とありますので、本照寺の檜も樹齢500年と言ってもよいでしょう。
■そんな檜がウロ(空洞)になつていましたので、弱っている状態が続いていました。そこで7年程前に下荻野「難波造園」さんの難波良雄樹木医に樹勢回復のため、根張り等を整えていただいたところ、すっかり元気になった次第です。

「私たちが今、当たり前のように多くの命をいただいている。しかしそんな中からは、実は見えてこないものがたくさんあるように思えます。
子供たちは、お弁当作りを通して見えてきた命、そして命の尊さ。
：「人を悲しませてはいない命が悲しむね。人が喜んでくれるようなことができれば、きつと、いただいた命も喜んでくれるね」
：私たちが、「いのち」の食べ方を知る必要があるのではないのでしょうか。
すてきな言葉
「いただきます」、そして「ごちそうさま」